

令和3年度第1回逗子市食育推進懇話会 概要

日 時 令和3年6月4日（金）15時00分から16時30分

場 所 逗子市役所5階 第2会議室

出席者 ◎佐野喜子、鈴木洋子、堀川ノブエ、近藤千賀、森荘一、青木俊幸、大竹清司、森谷紀子、
広田あや子、鷹本由貴子、圓谷真理子 ◎：アドバイザー

代理出席 桜井雅子

欠席者 若林順子、吉川裕美、川名裕、川畑明日香

傍聴者 なし

事務局 廣末参事、稲井係長、奥戸、伊藤

議事概要

1 開会

資料確認及び参事あいさつを行った。

2 自己紹介

アドバイザー、メンバー及び事務局職員の自己紹介を行った。

3 議題

(1) 令和2年度逗子市食育事例集に係る内容確認について

ア 事務局からの提案

事前送付した「令和2年度逗子市食育事例集」について、本市の食育事例を蓄積し、進行管理や食育の更なる推進のため、昨年度1年間に市が実施した取組みをまとめたものである。今後、庁内関係課の照会を経て、8月頃に公表したい。

については、各自査読の後、事例集の内容や食育の進捗状況等について意見交換を行いたい。

イ メンバーからの意見

事務局からの提案に対し、メンバーから次のとおり意見があった。

- ・訪問事業は大切なものであり、良いと思う。
- ・コロナ禍になり、どこも「一緒に食べる」ということが全くできなくなってしまった。わいわい楽しく食事をするのがあまり好ましくないとされる傾向が続いており、残念に思う。

- ・給食を通じた食の取組みが丁寧に実施されており、今後もぜひ継続してほしい。
- ・小坪小学校で行う「わかめ収穫体験（事例No.31）」がうらやましい。このような事例を通して食べ物との関わりが生まれてくると思う。
- ・様々な意味で全ライフステージに網羅されており評価できるが、その分1つ1つの事業を個別に評価することは難しい。
- ・ある程度の年齢までは大人も子どもも食に対して一生懸命だが、ある時点を過ぎると自分で考えるよう、自立性が求められるようになってしまうと思う。市内中学校でも様々な食育の取組みがあるので、ぜひ継続してほしい。子ども達が楽しかった、美味しかったと思えるような環境づくりに向けて、この会を通じて啓発できればと思う。
- ・小坪のわかめの取組みなど、海から離れた地域からするとうらやましい。居住地区に関係なく、子ども達が逗子の海に関連した食育活動に取組めると良いと思う。
- ・海に関連した食の取組みがあり素晴らしいと思う。
- ・計画における取組の方向2「安心して食べられる」の事例が少なく残念である。添加物や栄養成分については気にかけているが、食品表示法の改正等について知らない市民も多い。食品表示や添加物とアレルギーの関係なども周知してほしい。
- ・食料自給率向上のためにできることを考える視点を持つことが、食文化を守ることにつながると思う。食料自給率と関連付けた食育を行うことで、子どもも大人も変わり、社会への働きかけにもつながると思う。
- ・「中止になった食育事例」についても、取組みの方向別に記載するとよい。

ウ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

- ・昨年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、活動の場所や年齢等、様々な制約条件があったと思うので、食育についてもどこができていて、どこができていないではないと思う。
- ・逗子の特徴は地産があることだと思う。第2次逗子市食育推進計画において「地産地消を意識している市民の増加（数値目標No.3）」とダイレクトに目標設定ができるのは逗子ならではのあり、市内の事業関係者等の成果であると思う。農業については、湘南野菜や鎌倉野菜など近隣の地域の地場野菜があるので、県全体として捉え、意識して連携していく考え方でよいと思う。このような逗子の強みを意識しながら食育に取り組めるとよいと思う。
- ・コロナ禍において、どうしても対面の事業は中止になる場合があったかと思うが、例えば「福祉配食サービス利用者への健康情報の提供（事例No.23）」など、自宅にいながらも情報が取れる取組

みは今後も継続すべきだと思う。人と接する機会が減った方が多くいるが、例えば配食サービスを通して、定期的にきちんとしたものが喫食でき、味付けを通して自身の食生活を振り返ることもできる。

・市へのリクエストとして、母子関係の事業はぜひ動画を作成して掲載してほしい。今の保護者はスマホを持っているので逆につながやすいと思う。子育て中等、外に出かけにくい人にとっては、自宅にいながら相談ができることは大きいと思う。このコロナ禍を逆にとり、つなげられるところから先につながりを加速させていくことも1つだと思う。自信をもってアピールしてほしい。

・逗子は以前行った食育の市民アンケートの回答率がよかった。逗子に愛着を持っている市民が多いと感じる。そのような点も踏まえてできるところから進めてほしい。

エ 事務局からの連絡

発表された意見等は各課へフィードバックし、事業改善の参考にするほか、今後の食育関連事業の構築に役立てる。この会議の後で意見等があれば6月中に連絡してほしい。

(2) 重点目標の推進について

ア 事務局からの提案

今年度の重点目標について、昨年度末の書面会議において「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、ほぼ1日2回以上喫食している市民の増加」に決定した。啓発の場面や内容について意見等を伺いたい。

イ メンバー等からの意見

事務局からの提案に対し、メンバーやアドバイザーから次のとおり意見があった。

・主食を食べない中高年層が一定数いると思うので、そのような方々の食生活を反映させると、主食・主菜・副菜を組み合わせて食事する人の割合は減少すると思う。

・主食にはパンや米などいくつか種類があると思うが、日本人の食生活には米が合うと思うので、主食の中でも米を食べてほしい。主食・主菜・副菜という啓発の中に、米を食べるという観点も加えてほしい。

・主食の中で塩分が含まれないのは米だけである。日本人は食物繊維の摂取量が減少しており、野菜摂取を促す傾向があるが、実は野菜の摂取量は横ばいであり、穀類の消費量減少が大きく影響している。昔に比べて米の摂取量が減った分、雑穀や麦等を加えて食物繊維量を増やすこともできる。主食を食べない分、肉や野菜のおかずを食べると塩分量や脂質が増加するため、高血圧等の生活習

慣病につながりやすい。減量を目的に糖質制限する場合は期間を限定し、自身の検査データに合わせたものにしてほしい。

食の情報も、自身がほしい情報に偏る傾向があるため、どう伝えていくかも今後の課題だと思う。

・自分で検索して得た情報ではなく、この懇話会等で挙げたような正しい情報を、市民が見やすい場所に公開するのはどうか。分かりやすい指針があれば、それに基づき正しく食べられるようになると思う。

・ライン公式アプリを立ち上げるのもひとつだと思うが、紙面での情報収集が中心である高齢者等の方々もいる。広報にコラムを書いて啓発するのも1つだと思う。

・親が米を食べないので子どもも米を食べない。

・以前、ダイエットで減量したが、米を食べなくて便秘になってしまった。野菜を食べて解決しようとしたが追いつかなかった。

・高校生頃になり、自分で食事を選択しなくてはならない場面があると、副菜は削られてしまうのではないか。中学生のうちに食育の中で食べ方を学ぶことで、体調を崩した時に自分で振り返られる食の知識を得てほしい。中学生くらいになると、自分の頭で考えられるようになると思うので、1回だけではなく、繰り返し啓発してほしい。高校生は積極的に食事を減らしたり、好きなものだけ食べたりする傾向があると思う。

(3) コロナ禍において実施する食育関連活動について

ア 事務局からの提案

新型コロナウイルスの影響は甚大なものがあるが、このコロナ禍において実施する食の関連活動について、活動の現状や留意点等について情報交換を行いたい。

イ メンバーからの意見

事務局からの提案に対して、メンバーから次のとおり意見があった。

・観光協会と連携して様々な事業を行っている。食に関するものでは、今度船上市場を開催する。以前行っていたような現地での飲食は中止とし、販売のみとした。

・昨年度以降、市民への講習会（調理実習）ができない状況であるため、県等から依頼のあった啓発については、資料を作成し市民へ配付する形が中心になっている。

・野菜の収穫体験や栽培体験といった活動では、中止になった案件もあるが、開催場所を屋外にする、人数を制限するといった工夫をして少しずつ実施している。今までは収穫後にその場で調理実習をするなど、食につながる活動を行っていたが、食べる行為ができず課題に思っている。映像を活用した料理教室などの意見もいただいたので、参考にしたい。

ウ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

・できることから実施してほしい。重点目標の推進については、先ほどの意見でも出たように、例えばどんぶりでも主食・主菜・副菜が揃うなど、柔軟に教育をしていく必要がある。バランスよく食べるということは、栄養素の偏りを予防することであり、免疫力を高め体重管理ができる。その点をしっかり示して啓発するとよいと思う。

4 その他

事務局より、今年度の懇話会日程等について連絡があった。

5 閉会